

## TOPICS

## 1

エビデンスを基にした意思決定支援（IR）  
でビジョンの実現を目指す

岡山大学長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現のため、エビデンスを基にした意思決定支援（IR）を進めており、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」事業を進める上でも重視しています。今回は、「J-PEAKS事業における研究IR」についてご紹介します。

## ①IRとは何か？

IR（Institutional Research）は、大学などの高等教育機関が自機関の様々な情報を収集・分析し、目標設定や戦略策定、評価などの様々な意思決定を支援する活動です。研究IRでは研究成果や研究費、人事情報などの研究に関わる様々な情報を用いることで、研究に関わる意思決定に貢献しています。

## ②IRによる戦略的な研究力強化の取組とその成果

岡山大学では、URAによる研究マネジメントとエビデンスに基づいた重点投資により、様々な学内独自の制度・事業を実施しています。これらの取組に対して、ロジックモデル（取組を論理的に整理したもの）を用いた取組状況や投資効果の評価を毎年実施し、取組の継続や予算配分等の意思決定に貢献しています。また、2023年に制定した「岡山大学最重点研究分野」も研究IRに基づいて選定しています。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id12288.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12288.html)

## ロジックモデルによる取組状況や投資効果の可視化（岡山大学統合報告書2023から抜粋）



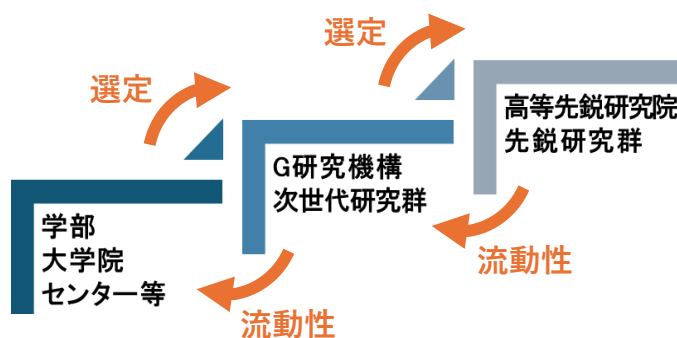
※1 2023年5月現在 ※2 RECTORプログラム6拠点、次世代研究拠点・国際研究拠点形成支援事業グループ代表者57人、研究教授・准教授36人、科研費セーフティネットで支援した71人の業績を集計。増加額、増加率は対2015-2018年の値 ※3 支援を実施した基礎研究（S、A、B）について、大学全体を集計

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/freetext/kaikaku-annual/file/OU\\_integratedreport2023\\_v.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/kaikaku-annual/file/OU_integratedreport2023_v.pdf)



## 研究IRを活用した評価と流動性を兼備えたシステムの構築

- ◆ 研究IRを活用した重点投資と評価による入れ替え
- ◆ 流動性により研究群の切磋琢磨と的確な支援を実現



## BIツールによる進捗管理の効率化



BIツールによる年次・月次推移  
や将来予測の可視化



クラウドサービス



大学執行部  
事業関係者

### ③J-PEAKS事業における研究IRの貢献

J-PEAKSの取組1(研究力強化)では、研究IRに基づいた重点投資とその効果検証により、強みをさらに“強く”、“尖らせ”ることを目指しています。先鋭研究群の選定や審査に研究IRを活用し、実績に応じた評価と流動性を兼ね備えた強化・育成のシステムを構築します。

また、事業全体の指標管理について、BI(ビジネスインテリジェンス)ツールを活用することで効率的な可視化とデータ共有を実現しています。これにより、J-PEAKS事業全体の進捗状況を随時確認することができ、J-PEAKS事業の目標達成および岡山大学長期ビジョン2050の実現に大きく貢献します。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/upload\\_files/freetext/J-PEAKS/file/vol3.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/upload_files/freetext/J-PEAKS/file/vol3.pdf)



### ○那須保友学長のコメント

岡山大学は、強みや特色ある研究分野に対して、研究IR等のエビデンスに基づく「ひと・もの・カネ」の重点投資を実施し、研究拠点の強化、形成支援・若手研究者支援、研究基盤・環境の充実を目的とした様々な制度・事業に取り組んできました。

J-PEAKS事業においても同様に、研究IRを用いてリソースの重点投資先を決定する等、長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」の実現に向けてエビデンスに基づいて、事業を推進します。



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY



J-PEAKS



TOPICS  
2「途上国からの若手研究者の博士課程学位プログラム」  
第1期生のウグー・チゴジーさんが博士号を取得！ 修了  
証書授与式を国連貿易開発会議(UNCTAD)と共催

本学は「途上国からの若手研究者のための博士課程学位取得プログラム」第1期生のウグー・チゴジーさん(ナイジェリア出身)の修了証書授与式を国連貿易開発会議(UNCTAD)とともに挙行了しました。

同プログラムは、UNCTADとの包括協定に基づき2020年より実施しています。

今後も、STI for SDGsを実施運営する国連の中核機関であるUNCTADとの連携を強化し、STI for SDGsの博士人材育成の取り組みを岡山から世界に発信していきます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13567.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13567.html)

TOPICS  
3「第1回総合技術部研修会 不易流行一総合技術部発足  
1年を迎えてー」を開催～研究ファーストの研究大学とし  
て常に時代の先端技術を担う技術者集団へ～

本学総合技術部は、「第1回総合技術部研修会 不易流行一総合技術部発足1年を迎えてー」を開催しました。

技術職員一人ひとりが自分事として行動する組織として、更なる「進化」「高度化」を進めるため、佐藤法仁本部長や田村義彦部長らの熱い講演や各課の取り組み報告、職員からとの一問一答などが活発に行われました。

今後も技術職員のスキルアップを図ることにより、「研究ファースト」を掲げる研究大学：岡山大学の運営に深く関与できるようにします。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13558.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13558.html)

TOPICS  
4横井篤文副学長がユネスコ国際高等教育研究所主催  
の「大学とサステナビリティ経営に関するユネスコ会合」  
にパネリストとして登壇

スペインのマドリードでユネスコ国際高等教育研究所(UNESCO-IESALC)が開催した大学とサステナビリティ経営に関するユネスコ会合に横井篤文副学長・ユネスコチェアホルダーがパネリストとして招へい参加しました。

横井副学長は本学のユネスコチェアの取り組みや岡山大学グローバル・エンゲージメント・オフィスを通した国連・国際機関と大学の直接連携によるプロジェクトの推進など、SDGs達成に資する大学のサステナビリティ・マネジメントの組織変革や戦略計画などの強化について活発なディスカッションを行いました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13609.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13609.html)



TOPICS  
5

## 岡山大学高等先鋭研究院先鋭研究群「植物・光エネルギー開発拠点」キックオフミーティングを開催

高等先鋭研究院の研究特区である先鋭研究群「植物・光エネルギー開発拠点」のキックオフミーティングを開催しました。植物・光エネルギー開発拠点の構成員に対し、研究特区先鋭研究者及び、研究特区主任研究者任命の辞令交付とともに、構成員の紹介、研究内容の概要についての共有、今後の拠点活動の進め方についての意見交換、研究者間の協力・協働体制について議論しました。

J-PEAKS事業では、本拠点が先陣を切って世界と伍す卓越ある研究拠点となります。本学の強みある研究分野の融合、先鋭化で、より良い社会変革の実現を加速させます。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13583.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13583.html)

TOPICS  
6

## 那須保友学長が「2024 International Forum on Higher Education」において代表講演



那須保友学長が、10月13日に中国・北京で開催された中国高等教育学会主催「2024 International Forum on Higher Education」に、日本全国の国立大学法人等が会員である一般社団法人国立大学協会の代表として参加。「Innovative Talent Development at National Universities in Japan」と題して、日本の国立大学の概要と、わが国の科学技術政策および国立大学における取り組みについて講演を行いました。また、30を超える国と地域から約500人が参加者らと交流において、J-PEAKSを含めた情報交換等を積極的に実施しました。

参加 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13612.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13612.html)

TOPICS  
7

## 高等先鋭研究院資源植物科学研究所の馬建鋒教授が「遠山椿吉記念第9回食と環境の科学賞」を受賞

一般財団法人東京顕微鏡院と同法人の医療法人社団こころとからだの元氣プラザは、「遠山椿吉記念第9回食と環境の科学賞」を発表し、本学高等先鋭研究院を構成するひとつである資源植物科学研究所 (IPSR) の馬建鋒教授が「穀物有害元素集積機構の解明と低集積品種の育成」というテーマ名で受賞しました。

J-PEAKS事業では、植物を基盤とした基礎研究の深化・融合から地球と生態系の健康 (Planetary Health) の実現ため、研究力強化に取り組んでいます。馬教授は高等先鋭研究院先鋭研究群「植物・光エネルギー開発拠点」の副拠点長であり、わが国が世界に誇るトップ研究者のひとりです。引き続き、馬教授ら岡山大学の取組にご期待ください！



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13597.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13597.html)

## TOPICS

## 8

## 岡山大学次世代研究者挑戦的研究プログラム(OU-SPRING)同窓会コミュニティ「OU-BRIDGE」発足！

本学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」に採択されています。今回、大学院博士課程(博士後期課程)に在籍する大学院生に対して実施している研究活動支援プログラムのひとつである岡山大学次世代研究者挑戦的研究プログラム(OU-SPRING)の同窓会コミュニティを10月15日に発足いたしました。

本同窓会コミュニティは、OU-SPRING生相互の交流と親睦を図るとともに、OU-SPRING生たちが分野を超えて融合し、本学とともにイノベーションを起こすことを趣旨として設立したものです。

OU-SPRING生の池坂和真さんから趣旨等を説明のうえ、投票によって「OU-BRIDGE」に決定しました。OU-BRIDGEには、本コミュニティが人と人の架け橋となってほしいという願いが込められています。ぜひ未来のナレッジワーカーを担うOU-SPRING生らにご期待ください！

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13615.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13615.html)



## TOPICS

## 9

## 早稲田・山口・岡山の3大学合同情報交換会議を開催～国立・私立の枠を超えた技術職員の連携強化と組織運営、技術向上に向けて～

本学は、技術職員や研究設備などの研究基盤について早稲田大学、山口大学との3大学合同情報交換会議を開催しました。

実験実習の受け入れ・学生指導等を実施していることなど、大規模な実験実習の運営に関するノウハウや工夫について密な意見交換、現場視察を実施しました。

J-PEAKS事業の取り組みの一環として、今後も他大学・他機関と積極的に意見交換を行い、1大学に留まらない技術職員の高度化や研究設備機器共用等を強化します。



参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13550.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13550.html)

## TOPICS

## 10

## J-PEAKS事業で医学部保健学科の学生がデジタル田園健康特区の吉備中央町のイベントに参加一町の便利アプリの使い方をサポート

デジタル田園健康特区の吉備中央町で開催された「わっしょい和んさか吉備高原フェスタ」に、本学医学部保健学科の学生、卒業生、教員、J-PEAKSコーディネーターが参加し、吉備中央町の住民の方々へ、情報、健康、母子手帳、暮らし相談、買い物、移動サポートなどのサービスを1つのアプリから利用できる便利なツール「きびアプリ」の登録や操作をサポートしました。

本イベントに参加し、地域住民の方々が抱える課題をデジタルの力で解決することはJ-PEAKS事業の取組の一環です。引き続き、地域とともに社会変革を進めます。



J-PEAKS

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13575.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13575.html)

TOPICS  
11非接触・非装着型のトレーニングツールの利活用から  
生まれるイノベーションについてアイデアを検討する「岡  
山リビングラボ」を開催

本学大学院ヘルスシステム統合科学研究科とおかやまスタートアップ支援拠点運営委員会は、革新的なサービス・商品のアイデア等の創出を目指す「岡山リビングラボ」を開催しました。今回はTANOTEC株式会社の非接触・非装着方のトレーニングツールを活用した事業アイデアについてワークショップ形式で検討。知識から新しい価値を生み出すナレッジワーカーの育成も含めて、事業活性化案を練りました。

J-PEAKS事業では、イノベーション創出を目指すスタートアップ支援を地域とおもに積極的に実施しています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id13540.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13540.html)

TOPICS  
12岡山大学高等先鋭研究院先鋭研究群の設置に関する  
規程を制定

本学の強みである研究分野に世界トップレベル研究者の集約や資源の傾注を行うことで研究を先鋭化させ、研究界における国際トップサークルを先導するとともに異分野融合によりイノベティブな研究・技術開発等を促進するため、岡山大学高等先鋭研究院先鋭研究群を設置しました。

## イチオシの研究設備

SQUID(超伝導量子干渉素子)による  
超高感度磁気測定

SQUID式磁化測定装置「MPMS®3」は、SQUID(超伝導量子干渉素子)を磁気センサーとして、極めて高感度な磁化測定を行う装置です。本装置では30分未満で室温から1.8Kまでの高速温度制御や7Tにおよぶ高磁場の印加も可能であるため、学内外の幅広いユーザーに利用され多くの研究成果を挙げております。特に測定モードとしてVSMを利用することで、より測定感度が $10^{-8}$ emu、かつ測定最大レンジも100emuまで向上するため、より少量の試料かつ短い測定時間で高感度な磁化データを得る事が出来ます。無機・有機材料の超伝導特性や磁気特性の決定にご活用下さい。



日本カンタムデザイン MPMS® 3

岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY

J-PEAKS

本装置や共同利用の設備に関するお問い合わせはこちら：[cfp@okayama-u.ac.jp](mailto:cfp@okayama-u.ac.jp)

参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/equipment/view/215>

